

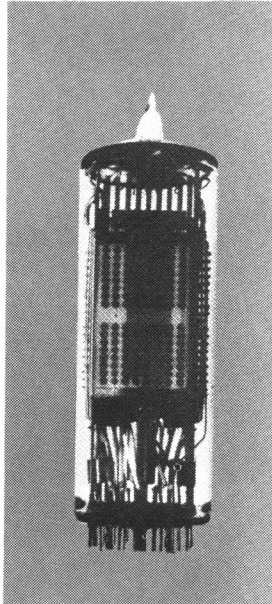
教具・作品紹介

コンピュータの記憶素子の移り変わり

情報棟玄関ロビーには、いろいろな記憶素子の実物が展示されています。時間に余裕があるときは、来所した生徒達に説明していますが、非常に強い関心を示してくれます。

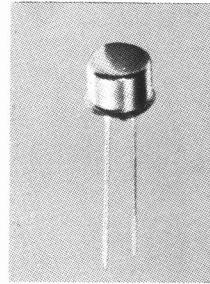
第一世代（真空管）

今から35年前、世界で初めての電子計算機 ENIAC（エニアック）が誕生しました。真空管18,800本を使った巨大な装置です。



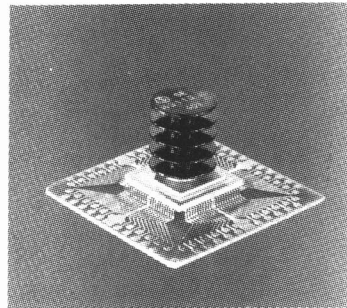
第二世代（トランジスタ）

1960年代に入ると、トランジスタ・コンピュータが次々に出現しました。コンピュータの本格的実用期に入ったのがこの世代といえるでしょう。



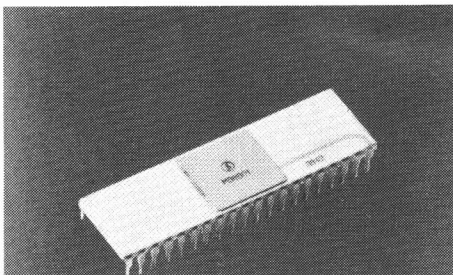
第四世代（LSI）

LSIは、数10個のICを取り付けたプリント板に匹敵します。記憶素子の小形化、高密度化によって、コンピュータは、ますます小形化すると同時にその性能もさらに向上しています。



第三世代（IC）

IC（集積回路）は、数個のゲートを一つのシリコンウェハーの上に組み上げたものです。LSIに対応して SSI（small scale integration）とも呼ばれ、現在のコンピュータの主流部品となっています。



昭和55年 2月15日印刷
昭和55年 2月20日発行

発行所 福島県教育センター
福島市瀬上町字五月田16
〒960-01 ☎ 53-3141

編集兼
発行人 佐藤 信久

印刷所 大盛堂印刷所